



諸國名義考

下

ル 3
3055
24



門 凡 3
號 3055
卷 2



諸國名義考下卷

石見國濱田家人

齋藤彦麻呂誌

北陸道

延喜民部式尔若狹為近國越前加賀能登越中為
中國越後佐渡為遠國と云々西宮記尔くくが
あり又きとのあり又やまねりちとよたり北山
抄尔ハ久流加乃道とよたり

若狹

和名抄尔若狹 和加佐国府 在遠敷郡 名義の考へ得ども一文字
如く若狹と云々狹き國と云々義々延喜神名式尔若狹

國遠敷郡若狹比古神社二座名神大と云ふハ此國亦坐
少老の神号あり又云こ此神より賈一國名あり本末と
云ふと或書に引る風土記乃逸文尔昔此國有男女為夫
婦共長壽人不知其年數容貌若而如少年後為神今一宮
神是也因茲有若狹之名とありこるより云り云ふまきこ
也

越前

和名抄尔越前古之乃三知乃ク
知國府在丹生郡立入信友云京より越前敦賀郡
へ行道尔道乃口云云此地ありこ此國乃古名尔かあり
云い云り名義ハ日本紀纂疏尔彼地有坂名曰角鹿行人

必踰此坂入越絶故名曰越也とありハ非あり古事記傳
尔山と越て行國なり故乃名と云ハ云ハ云と云あり云ハ
自ら越るとを古延とて云云ハ古志ハ令物越と云ふハ
我と物との異あり今世我申尔山川と古須と云ハ誤
なり云あり云と云と云と云と日本書紀神代卷尔越
洲とありと或説尔蝦夷地と云ふ云り云越國ハそこへ
往來乃道なり故乃名と云ふ云いたく強事あり云云れ
云り云れ云越前越中越後加賀能登出羽等あり云べ
云あり云れ云越國尔陸奥と云ふ云乃國なり類聚三代
拾尔此國面帶大海遠向異方云云と云り日本書紀垂仁

天皇紀額有角人乘一船泊越國筭飯浦云々問之曰何國
人也對曰意富加羅國王之子名都努我阿羅斯等亦名曰
于斯岐阿利叱智于岐云々乃有外國人來
調貢其物運置之乃急命之乃呼之曰外國之
諸越之思之調貢乃品之越乃國之
古事記傳云越後國古志郡ありれをそこよ
於高志前之角鹿
造假宮而坐云々其御祖息長帶日賣命釀待酒以獻爾其
御祖御歌許能美岐波和賀美岐那良受久志能加美登許
余迹伊麻須伊波多々須久那美加微能加牟菩岐云々

日本書紀崇神天皇卷尔天皇以大田根子令祭大神是
日活日自舉神酒獻天皇仍歌之曰許能添和破和餓添和
那羅孺柳磨等那殊於朋望能農之能介添之添和云々
あれを久志ハ酒と云々記乃應神天皇卷
大御歌尔須々許理賀迦美斯美岐尔和禮惠比迩祁理許
登那具志尔和禮惠比迩祁理と云々思之思之久志
乃國云々論の給之猶下乃能登國於條尔
加賀
和名抄尔加賀 国府在 能美郡 名義ハ日本紀畧尔加賀國云々以

諸國名義考

下卷 三

地廣人多也とありと思へを赫乃國ありていふも
くく地多しをなり又思ふ今も此國より鏡磨師
し出るあり鏡をも加賀といひり大和國城下郡鏡作
と加都久利といひり例たり或書ル四時因有雪以加
賀故稱加賀也といふ字あるがごとく妄言あり類聚
三代格弘仁四年二月三日大政官謹奏割越前國江沼
加賀二郡為加賀國云々日本後紀云々年月違ひといふ
二郡と割て此國と立らば同トて以部内潤遠民
人愁居也とあり國造本紀云々賀我國造云々難波朝御
代隸越前國嵯峨御世弘仁十年割越前國分為加賀國

あり立入信友云々舊事本紀云々伊勢藩主女賀具呂姫云々
豐受大神宮祢宜補任云々大若子命一名大幡主命越國荒
振凶賊阿彦有^天不從皇化取平^{ニマカレトノリモヒテ}詔^天云々といふと
思へを延喜神名式云々加賀國能美郡幡生神社とありて
幡主乃誤るを加賀ハ賀具呂より負^{オヒ}名あるべし國造
本紀云々加我國乃次云々加宜國乃次云々江沼國ありか
れを主と生と又具字と宜字とを似てる字体あり以て
是れ一字誤ありといふなり
能登
和名抄云能登^{國府在能登郡}名義いふも思ひ得る上乃越前乃條

糸引る古事記傳乃説尔より強ていへる吞門乃國形
べきら加賀國尔能美郡乃古事記乃須久那美加微能
加牟菩岐云々日本書紀乃於朋望能農之能介泚之泚
云々也あゝ延喜神名式尔能登國羽咋郡大穴持像石
神社同國能登郡宿那彦神像石神社也あゝと合せ思
へる吞門乃弘仁私記尔少彦神是造酒神也
式尔能登郡能登比咩神社又能登生國玉比古神社も
了續日本紀元正天皇養老二年五月乙未割越前國之羽
咋能登鳳至珠洲四郡始置能登國聖武天皇天平十三年
十二月丙戌能登國并越中國孝謙天皇天平寶字元年五

月乙卯能登國依舊分立云々

越中

越後

和名抄尔越中古之乃三知乃奈越後古之乃美知乃名義ハ上越前

此條尔委く以て續日本紀文武天皇大寶二年三月甲

申分越中國四郡屬越後國云々

佐渡

和名抄尔佐渡國府在 難本郡名義ハ古事記傳尔狹門乃此島へ舟

入狹水門乃狹き也猶國形とよく尋て定むべし

中川顯允ハ海中尔放まると國を離所乃畧うと云

らむと云々續日本紀聖武天皇天平十五年二月辛巳
以佐渡國并越後國孝謙天皇天平勝寶四年九月越後國
佐渡嶋云々同年十一月乙巳復置佐渡國云々

山陰道

延喜民部式云丹波丹後但馬因幡為近國伯耆出雲
為中國石見隱岐為遠國云々日本書紀成務天皇
卷山陰曰背面とあり民部省圖帳云々山陰陸道
少あり西宮記云々ものあら又かげと云々乃云々
云々北山抄云々曾止毛乃道又旧説加介止毛乃
道と訓云々彦麻呂云々加介止毛と云々誤あり

丹波

和名抄云丹波 大ニ波國府 名義云田庭云々一度會の外宮
乃豐受大神此國云々 在桑田郡 内宮乃皇大神乃朝夕乃
大御食奉了給人故云々 オホミケ おい名云々一延曆儀式
帳云天照坐皇大神云々 オホハルセノスメラミコトニユメニヲシサトシタマハク 大長谷天皇御夢云々
高天原坐氏見志真岐賜志處云々 タカマノハラニマシテミシレマギタマヒシトコロニシヅマリマシヌ 都真利坐奴然吾一所
耳不坐波甚苦加以大御饌毛安不聞食坐故云丹波國比沼
乃真奈井云坐我御饌都神等由氣大神乎我許欲止誨覺
奉支尔時天皇驚悟賜色即從丹波國令行幸氏度會乃山
田原乃下石根云云 オホノハラノシタワイハ子ニミヤハレヲフトリタテタカマノハラニヒギタカニリテミヤサカ 根尔宮柱太知立高天原尔比疑高知氏宮定

和名抄云出雲 以豆毛国府 在意宇郡 名義ハ此國乃天平五年乃風土

記云所以號出雲者 ハ東水臣津野命詔ハ雲立詔之故云

ハ雲立出雲 ハ御孫乃り 詔ハ御祖須佐之男命乃御哥と臣津野

命乃唱へ給ひ ハ御孫乃り 古事記云其速須佐之男命宮可造

作地末出雲國云 自其地雲立騰雨作御歌日夜久毛

都伊豆毛夜幣賀岐都麻基微雨夜幣賀岐都久流曾能夜

幣賀岐衰 ハ給へり 之の國云出雲郡あり是則須

賀乃地云 詔之吾來此地 我御心須賀須賀斯と給

云 須賀郷ハ 云立騰と云 伊豆毛

給へ出雲乃字乃義

石見

和名抄云石見 以波美国府 在那賀郡 名義ハ字乃如く云又ハ石

群の約 ハ 萬葉集云 角部經石見之海乃言佐敝久辛乃埜有伊

久里尔曾云 ハ 伊久里云 石乃名カ 同集云 海乃

底澳津伊久里 ハ 日本書紀應神天皇御歌云 由

羅能斗能斗那訶能異句離耳云 ハ 給へ山陰

道乃俗ハ石 ハ 久利 ハ 伊ハ發語 ハ

此國唐乃崎岩屋山 ハ 殊云 岩多

大汝少彦名二神のかりし志臣乃岩屋 あり播磨の石室殿ハ人作え神作あり也

乃^ハ之^ノ也^{ナリ}北山抄^ノ云^ハ加介止毛乃道又旧
說曾止毛乃道也^{ナリ}
彦磨云曾止毛ト
トモハハヤマリ

播磨

和名抄^ハ播磨^ト
波里萬目府 在餘磨郡 名義ハ播磨國風土記^ハ菟原里
土中^ニ有^リ井^ト所以^ニ名^ス菟原者^ハ息長帶日賣命^ト從^テ韓國^ニ還上^リ之時^ニ
御船宿^ニ於^テ此村^ニ一夜^ノ之間^ニ生^レ菟根^ト高一丈許^ト依^テ名^ス菟原^ト即^チ關^ト
御井^ト故^ク曰^ク針間井^ト之^レ菟^ハ針^ト之^レ反^ト字^ト不^レ高^ク一丈許^ト也
水^ハ榛^トあり^ハぬ^ル道^ニを^リ針間井^ト國^トと^ハし^ハし^ハと^ハ井^トと^ハ畧^ト
き^ニ字^トや^ハ好^ク字^ト改^メら^レし^ハる^ハべ^シと^ハし^ハ總^ノ國^ノ風^土
記^ハる^ハ播磨國者^ハ往^テ昔^ニ神^ト大^ニ日本^ニ磐^ト余^ト彦^ト天皇^ノ東^ニ征^テ之後^ニ大^ニ

國^ノ富^ト命^ト所^レ領^ル行^也也^ト所^レ号^ス播磨者^ハ國^ノ所^レ造^ル天下^ノ大神^ト大^ニ穴^ト持^テ命^ト
與^テ少^ト彥^ト名^ト命^ト巡^ル行^テ天下^ノ之^レ御^ト時^ニ到^リ座^ニ此^ノ國^ノ海^ノ邊^ニ詔^シ此^ノ國^ノ如^キ張^ト
弓^ト國^也也^ト詔^シ給^テ故^ク云^フ張^ト濱^ト國^ト今^ニ云^フ播磨^ト之^レ縁^也也^トヤ^ハル^ハあり^トす^ト
古^ノ事^ノ記^ス傳^ル赤^ト染^ト右^ノ衛^ノ門^ニ集^ル播磨^ト之^レ來^ル人^ト其^ノ針^トと
抄^ト云^フ云^フと^ハ藤^ノ原^ノ明^ノ衡^ノ新^ノ猿^ノ樂^ノ記^ス集^ル諸^ノ國^ノ土^ノ
産^ト云^フ播磨^ト針^トと^ハ云^フ少^トを^リ引^テ針^ト也^ト云^フ云^フ云^フ
きたり

美作

和名抄^ハ美作^ト
美萬佐加國 府在若東郡 名義ハ考^ヘ得^ル強^クい^ハ
美^ト和^ト坂^ト也^トハ^ハあ^ハる^ハこ^ト此^ノ國^ノハ^ハ備^前國^トと^ハす

分きゆり苦東郡尔美和郷あり延喜神名式尔備前國邑
久郡美和神社ありわづらをひらきへうねりたる
あしむる美和と云ふ心と續日本紀元明天皇和銅六
年夏四月乙未割備前國六郡始置美作國とありその時
美和郷ハ分たふ境ありてりり各尔属いて美和境也
云ふるこれらしおのり強説あり立入信友ハ真鳥郡尔
美田郷あれど和名抄小訓法ありり美宇麻ありり又
ハ美万ありり國人尔問まほしうらら美甘坂ありむら
あしむり

備前

備中

備後

和名抄尔備前

政比乃美知乃久
如国府在御野郡

備中

吉備乃美知乃奈
如国府在賀夜郡

備後

吉備乃美知乃之
利国府在莖田郡

各義ハ黍ふりり因幡ハ稻葉阿波ハ粟ありり類

あり日本書紀應神天皇二十二年秋九月辛巳朔丙戌云
幸吉備云く御友別参赴之則以其兄弟子孫為膳夫而奉
饗焉云く因以割吉備國封其子等也く孔奉饗やありり
くく備後國風土記尔疫隅國社昔北海坐志武
塔神云く兄蕪民將來甚貧窮弟將來富饒云く即以粟柄為
座以粟飯等饗奉云くく粟黍異ありりそのち

あゝ遠かゞどこ武塔神を速員佐雄神とあり速須佐
之男神と云ふと傳へ誤らるる延喜神名式不備後
國深津郡須佐能袁能神社あり古事記に大吉備津
日子命與若日子命二柱相副而於針間氷河之前居忌籠
而針間為道口以言和吉備國也云々延喜神名式に備中
國賀夜郡吉備津彦神社各神あり姓氏錄尤京皇別尔吉
備宿禰大日本根子彦太瓊天皇皇子稚武彦命之後也
つゝわらゝく饗よよありさゆゝこの御名ハ御功尔よ
つゝ國号と員せを稱へ奉るる一總國風土記尔
此國寶龜辛亥年勅分兩國其後靈龜乙卯年分爲三箇國

安藝

和名抄尔安藝国府在安藝郡名義ハ鯉イサ一名あり一同抄
尔鯉イサ魚類也とあり日本書紀仲哀天皇二年夏六月
皇后役角鹿殺而行之到淳田門食於船上時海鯉魚多聚
船傍皇后以酒灑鯉魚鯉魚即醉而浮之時海人多獲其魚
而歡曰聖王所賞之魚焉故其處之魚至干六月常頌浮如
醉其是之縁也とありやうく神武天皇卷みり魚皆浮出隨
水アキトフ唵喞やありさる事より唵喞魚口上見也と註也
了詞花集尔花と惜む心とより了匡房春とる味深乃
海ウミゆゝあり小浮る魚乃名るる細くれこれ味深

又及ふと乃ろそのもちとちりり北山抄尔南乃
道ミチやミチちりり

紀伊

和名抄尔紀伊国府在名義八木國キクニありとと韻字ととくく
二字や一好字に改て紀伊とありり日本書紀神代卷尔
素戔嗚尊スサノヲノミコト其子五十猛神イタケルカミヲイタリマシ降シラギニ到於新羅云く初五十猛神
天降之時多將樹種而下然不殖スウエカラクニユリニモナカリテツヒニハダテ韓地盡以持歸遂始自筑
紫スヘテオホヤシマクニ九大八洲國之内莫不播殖而成青山焉所以称五十猛
神カミヲス為有イサヲノ功之神カミ即紀伊國所在大神是也ス又スキテ拔鬚ヒゲ散チリ之
即成リ杉ト又スキテ拔散胸毛是成檜ヒノキ尻毛是成披ヒ眉毛是成椽クサ樟ト云く

于時素戔嗚尊之子トキニスサノヲノミコトノミコト號曰五十猛命イタケルミコト妹大屋津姫命オホヤツヒメノミコト次ツギニ抗津
姫命ヒメノミコト九コノ三神ミコト亦能分布木種ワケテモミコト即奉渡於紀伊國也云くト
古事記云く木國大屋キクニオホヤツヒメノミコト毘古神ヒコノカミ云くト延喜神名式尔
紀伊國名草郡伊太祁曾神社イタケソノノ名神大月次各神大月大屋都比賣神社オホヤツヒメノ次各神大月新嘗
都麻都比賣神社ツマツヒメノ次各神大月新嘗
率手置帆負彦ヒト狹知二神之孫ヒト以齋イミ芥齋カイ鉏始採テ山林イマ構立カウ
正殿故其齋令在紀伊國名草郡御木ミケ麋香二鄉アラカ採材齋部イム
所居謂之御木造殿齋部所居謂之麋香是其證也アラカト云くトか
木種ミダ蒔マキを漢意カミ尔カミめカミるカミ思カミひカミてカミ疑カミふカミ人カミあカミるカミとカミれカミと
とてカミ神カミの御カミろカミへカミ人カミを異カミあカミりカミてカミ奇カミくカミ靈カミくカミ御德カミ

まゝしるものなり尋常乃淺智能理屈をも側ハカるるを
きんあゝど既尔外國ウチノクニも三五曆記云盤古死毛髮ウケ為草
木キとけりかの木種コノタネ時トキの古事コトけりづふのろとたる以
かく傳ツタへ謀マコるゝ又似ニたる傳へのありしをそハカよ
りかくりし漢意カンイを迷マヨるゝ人等と此書乃全篇よも得れ
事コトりたるも既尔師翁の諸書にソひつくされしものを令
けりけりやゝあはれと言コトるゝびふりよのゝ

淡路

和名抄ワナヒナ尔淡路アヲ 阿波知国府 在三原郡 名義ハ舊事本紀尔即謂イハレ吾耻也ウレハハカシ也
あると偽書ありをきくづいけりるゝ古傳尔コトりたる

記シしるゝ古事記傳尔日本書紀應神天皇オホホ大御歌オホミカ尔阿
波アハ旋ハ辞シ摩マとけり名義ハ阿波國へ渡ワタる海道ミチ尔ある嶋シマあり
由ヨリなり云イハくやある也ナリも同紀同卷尔二十二年秋
九月辛巳朔丙戌天皇狩シモラ于淡路島アヲノシマ是嶋者横海ヨコウミ在難波之
西ニ峯ト巖イ紛マ錯サ陵リヤウ谷コ相續アヒ芳ヨシ草クサ薈ケ蔚ウ長ナガ瀾ラン潺チ湲ウ云イハく古事記尔
大オホ雀カ天皇云イハく坐マシ淡道島アヲノシマ遙望トシ歌ウタ曰イハク於志オノシ氏ウヂ流ル那爾ナニ波ハ能ノ佐サ
岐キ由ユ伊イ傳デン多タ知チ氏ウヂ和賀ワカ久ク迹トキ美ミ礼レ婆ハ阿ア波ハ志シ摩マ湲ウ能ノ基キ呂ロ志シ摩マ
阿ア遲チ摩マ佐サ能ノ志シ摩マ母モ美ミ由ユ佐サ氣ケ都ツ志シ摩マ美ミ由ユ云イハくとけりるゝ
と思オモはる阿波道アハノミチありるゝとけりるゝ

阿波

和名抄云阿波国府在 名義ハ粟國古事記傳云粟ハ日本
 書紀神代卷云粟田ハ神武天皇大御歌云阿波
 布ハ給ヒてハ殊ク多ク作リ物アリ故
 粟ハ出来ル國アリ故ハ名アリ古語拾遺云求
 肥饒地遺阿波國云云穀麻と殖むハ肥地
 ありを粟ハ伯耆國風土記云相見郡家
 之西北有粟嶋少日子命時粟秀實離云云故云粟嶋也
 粟乃嶋名とありハ思ハ合セ云云あり
 古事記云粟國謂大宜都比賣云云
 宜ハ仮字云て食ハ粟ハ負ヒ名アリ云

讚岐

和名抄云讚岐佐奴岐国府 在阿野郡名義ハ古事記傳云古語拾遺云又
 手置帆負命之孫造ヲ竿ヲ其裔令分在讚岐國毎年調庸之
 外貢ハ八百竿是其事等之證也云云延喜臨時祭式云凡
 梓木千二百四十四竿讚岐國十一月以前差網丁進納
 あり是ハ思ハ竿ヲ調ニ國ヲ也あり誠ハもあり
 一竿ヲ畧シ乃都ヲ約シ佐奴岐あり玉勝間云
 讚岐國の事記セ書云三野郡竹田村云當國忌部の庄
 として殊勝乃地也釈迦堂敷と唱ふ五社大明神と云
 社ヲ乃氏神と崇ヒ此村往古貢旗竿八百本上納

に今其竹枯失て跡ハ田地とありてこれ故尔竹田
村と号をとりて古語拾遺云く茅竿延喜式尔ハ榊木
云々云々乃書に旗竿といへば誤り云々云々

伊豫

和名抄尔伊豫 伊豫国府 左越前郡 名義ハ古事記傳尔伊豫之 フタナミ 二名嶋
阿波讚岐伊余土左の四國と總と名あり萬葉集尔白
浪平伊余尔回之云くとあるも四國を總と云ふときも
是れ一國乃名なるが大名にありて筑紫の如し
二名も本より大名ありて一名ハ借字尔二並あり日
本書紀應神天皇卷乃大御歌尔阿波旒辞摩異柳敷多那

羅弭阿豆枳辞摩異柳敷多那羅弭豫呂辞枳辞摩之摩こ
妙ハ淡路と小豆島と並べりて給りて此二名
嶋乃事ありて二並てふ言ハ證あり万葉集尔二
並筑波乃山ともよがりさてこれ嶋ハ飯依比古ヤ愛比
賣と男女並び建依別と大宜都比賣と男女又並べりて
二並といふらまゝ伊豫と元より乃大名とせり弥の
意ハ彼御哥の言乃如く弥二並嶋ありて云々とい
たりつゝとよくありてとゆもつゝ立入信友云伊豫
國と愛比賣といふよりて愛ハ吉と延と云々とも
云々水を延と与云々云々云々伊ハ發語ありて

溝杭命九世孫小立足尼定賜國造フネテノスツ子あり續日本後紀尔
撰津人長我孫葛城事代主命八世孫忌寸宿祢苗裔也イミキノスツ子
あり高賀茂乃證フタタケノシメ延喜神名式尔土佐國土
佐郡葛木男神社葛木呼神社都佐坐神社朝倉神社幡多
郡賀茂神社あり

西海道

延喜民部式尔為遠國トホクニあり民部省圖帳尔ハ西
海濱道ニあり西宮記尔にニ乃ニ又ありのニ
北山抄ニあり西乃道ニあり

筑前

筑後

和名抄尔筑前

筑紫乃三知乃久
和國府在御書郡

筑後

筑紫乃三知乃之
里國府在御書郡

名義ハ釋日本

紀尔說有四義一云此地地形如木ツク之體故名之也二云公

望按筑後國風土記云筑後國者本與筑前國合為一國昔
此兩國之間山有峻狹坂往來之人所駕鞆鞆被摩盡土人
曰鞆鞆盡之坂三云昔此界上有庶猛神往來之人半生半
死其數極多目人命盡神于時筑紫君肥君等占之令筑紫
君等之祖甕依姬為祝祭之自尔以降行路之人不被神害
是以曰筑紫神四云為葬其死者伐此山木造作棺輿因茲
山木欲盡因曰筑紫國後分而為前後トあり四說乃中尔

國の内あり一や後ふ肥後ふを属一ふやありむ肥
前ハ筑前筑後と地接きて此三國ハ百一ふ取つべき
國形ふ肥後と清く離すふありふりふりふり
上代乃くやととらハ辨へがく一たふりふりふり驚
か一ゆく乃くありあり

豊前

豊後

和名抄ふ豊前 止與久迹乃美知乃 豊後 止與久迹乃美知乃 名義ハ
久知國府在京都郡 字のふや一豊ハ 久知國府在大分郡 富榮ヲ義あり日本書紀景行
天皇十二年云く天皇遂幸筑紫到豊前國長峽縣興行宮

而居故号其處曰京也冬十月封碩田國其地形廣大亦麗
因名碩田也とあることハ碩田乃名義と云ふも水と國号
以義ふよくゆふと此國風土記多々昔者纏向日代宮
御宇大足彦天皇詔豊國直等之祖菟名手遣治豊國往到
豊前國中津郡中臣村于時日晚僑宿明日昧爽忽有白鳥
從北飛來翔集此村菟名手即勸僕者遣看其鳥化為餅片
時之間更化芋草數千許株花葉冬榮菟名手見之為異歡
喜云化生之芋未曾有見實至德之感乾坤之瑞也既而參
上朝廷舉狀奏已上奉聞天皇於茲歡喜之在即勅菟名手
云天之瑞物地之豊草汝之治國可謂豊國重賜姓曰豊國

直因曰豊國云々とあり古事記傳尔てこの説ハ以て
といふれはたきやうありとてしるす

日向

和名抄尔日向 比字加國府 在兒湯郡 名義ハ日向 比字加

ハ後世乃音便ふる古事記尔天津日子番能迹

藝命云々天降坐于竺紫日向之高千穂之久士布流多氣

云々朝日之直刺國夕日之日照國也云々日本書紀景行

天皇十七年春三月戊戌朔己酉華子湯縣旋于丹裳小野

東望之謂左右曰是國也直向於日出方故号其國曰日向

也とありぬ水心神代とてささるゆゑなり景行天皇

乃御代尔云々号々治ひ一なるべし此國風土記尔見え

たるも日本書紀乃文と同一なる風土記尔曰杵郡乃千

穂乃古事と云々志尔曰杵郡内知鋪郷天津彦火瓊杵

尊天降於日向之高千穂二上峯時天暗冥晝夜不别人物

失道物名難別於茲有土蜘蛛名曰大鉗小鉗二人奏言皇

孫尊以御手拔稻千穂為叔投散四方必得開暗于時如大

鉗等所奏撻千穂稻為叔投散即天開暗日月照光因曰高

千穂二上峯後人改號知鋪とあり日向乃名義尔云々

みふり今世も二上峯尔登る人雲霧尔抑る事
時尔采と噫て息吹くを忽暗とてきりりなり一乃事

跡ありきいづ

大隅

和名抄尔大隅

於保瀬美國
府在桑原郡

名義ハ日向國内多々西南乃隅

尔差出々々々大隅郡ヤ号一々々々續日本紀元明

天皇和銅六年夏四月乙未割日向國肝坏贈於大隅始羅

四郡始置大隅國一々々々々乃國の々々日本書紀天

武天皇十年八月丙戌遣多祢島使人等貢多祢國圖其國

大京五千餘里居筑紫南海中云々々々類聚三代格尔天

長元年九月三日大政官謹奏停多祢島隸大隅國事云々

南溟森々無國無敵有損無益云々々々思へる國

乃果あり大隅あり

薩摩

和名抄尔薩摩

散豆

名義ハ幸濱ありむら古事記尔火照

命此者隼人阿多君之祖云々故火照命者為海佐知昆古

而取鱈廣物鱈狹物云々々佐知ハ幸尔え得物々々獵

ふとの意あり日本書紀孝德天皇卷尔薩摩之曲々々え

萬葉集尔隼人乃薩摩乃迫門乎雲居奈須遠毛吾者全

日見鶴鴨とあり續日本紀文武天皇大宝二年先是征薩

摩隼人時云々唱更國司等言云々々拾芥抄尔薩摩國

元唱更とあり姓氏錄右京神別尔阿多御手養火闌降命

六世孫薩摩若相樂後也山城神別阿多隼人富乃須佐利乃命之後也古事記熊曾國とありて此國ありて人ありて故乃名ありて薩摩人鼓川白尾國柱云薩摩と幸嶋乃義ありて今乃鹿兒島内海ハ天孫漁獵一給り一故址ありて大隅國桑原郡鹿兒嶋神社ハ彦火ノ出見命と祀奉るあり又鹿兒嶋マナシカメマ無目籠マナシカメマと出りやきくえ又南陸穎娃郡カゴ籠カゴと郷ありて今ノ薩摩國より西阿多郡川邊郡乃海邊までありて吾田國ありき云くとありて猶委シノ一シノとありて畧きて記シノつた國の名義と樂アゲす

乃

壹岐

和名抄氣壹岐由岐國府名義ハ日本紀纂疏イキ氣キ壹岐猶言雪

也シホナク潮沫如雪色カヤ白因カヤ此所成也カヤありて以て妄シガあり古

事記傳イキ伊伎嶋ハ萬葉集ユキ由吉能ユキ之麻マと見え和名抄

由ユ伎キとありて由ユ伎キと古訓ユキと思ふ人ありて日

本書紀イキ體イキ天皇卷乃歌イキ以祗イキとありて此記古事記あり伊

字イキをかき壹字由乃假字カリナありて伊伎イキありて事

明イキらイキ然イキきイキとありて懷風藻イキ伊伎連イキとありて姓と目錄イキあり

雪連イキとありて又カノ萬葉ユキ由吉ユキとありてありて以て思ふ

亦必由伎^キも通^カる^ル事^ニ故^ニあり各義と見え^ルり
故^カ思^フふ日本書紀天武天皇卷末齋忌^{イキ}此云^ク踰^ユ既^キあり
齋^イ忌^キハ伊^イ牟^ム伊^イ波^ハ布^フ由^ユ麻^マ波^ハ留^ル由^ユ志^シ由^ユ豆^ヅ伊^イ豆^ヅあり^ル事^ニ
亦^モ言^フふ伊^イト由^ユ通^カる^ル事^ニ故^ニあり^ル事^ニ齋^イ忌^キも古^コへん
伊^イ吉^キヤル云^フてし^スる^ルこの島あり^ル神^{カミ}祭^{マツリ}坐^マり^テ齋^イ忌^キ乃^ハ
事^ニあり^ル事^ニ故^ニあり^ル名^ナあり^ル事^ニ又^モハ漢^{カン}國^{クニ}へ渡^{ワタ}る^ルに先^マ
此^コ亦^モ舟^{フネ}より^テ息^{イキ}む故^ニあり^ル島^{シマ}あり^ル事^ニ又^モハ彦^{ヒコ}麻^マ呂^ロ云^フ延^ノ
喜^キ神^{カミ}名^ナ式^{シキ}亦^モ對^{タイ}馬^マ國^{クニ}上^ウ縣^{ケン}郡^{クニ}天^{テン}神^{カミ}多^タ久^ク頭^ヅ多^タ麻^マ命^{ノミ}神^{カミ}社^ヤハ今^{イマ}
佐^サ護^ゴ鄉^{サト}湊^{ミナト}村^{ムラ}あり^ル主^{ヌシ}基^キ社^ヤも^モ下^{シモ}縣^{ケン}郡^{クニ}多^タ久^ク頭^ヅ魂^{タマ}
神^{カミ}社^ヤハ今^{イマ}豆^ヅ酸^{サン}鄉^{サト}豆^ヅ酸^{サン}村^{ムラ}あり^ル悠^ユ記^キ宮^{ミヤ}も^モい^ハふ

玉勝間亦^モえ^ル事^ニ故^ニあり^ル國^{クニ}も同^{ドウ}ト^ク悠^ユ紀^キ主^{ヌシ}基^キ乃^ハ事^ニあり^ル
事^ニ多^タ心^{ココロ}あり^ル事^ニ故^ニあり^ル續^{ツグ}日本後紀仁明天皇兼和
二年三月己未云^フ壹^{イツ}岐^キ島^{シマ}遙^{トホ}居^ル海^{ウミ}中^{ナカ}地^チ勢^セ隘^イ狹^カ人^{ヒト}數^{スベテ}寡^カ少^シ
難^{ナシ}支^シ機^キ急^{キウ}項^{コウ}年^{ネン}新^{シン}羅^ラ高^{カウ}人^{ヒト}來^キ窺^{カサ}不^フ絕^{ケツ}非^ヒ置^チ防^{ボウ}人^{ヒト}何^{ナニ}備^ヒ非^ヒ常^{トコ}云^フ
類^{ルイ}聚^{ジュ}三^{サン}代^{ダイ}格^{カク}兼^{ケン}和^ワ五^ゴ年^{ネン}七^{シチ}月^{ゲツ}二^ニ十^{ジュウ}五^ゴ日^{ニチ}云^フ壹^{イツ}岐^キ島^{シマ}解^{トク}備^ヒ此^{コト}
嶋^{シマ}所^{コロ}設^{セツ}器^キ仗^{ヤウ}之^ノ有^{アル}弩^{コウ}云^フ三^{サン}代^{ダイ}實^{ジツ}錄^{ロク}清^{セイ}和^ワ天^{テン}皇^{カウ}貞^{テイ}觀^{カン}十^{ジュウ}二^ニ年^{ネン}
春^{ハル}正^{テイ}月^{ゲツ}十^{ジュウ}三^{サン}日^{ニチ}丙^{ヘイ}寅^{イン}是^シ日^{ニチ}勅^{テウ}亮^{リョウ}壹^{イツ}岐^キ島^{シマ}胃^イ并^{ヘイ}平^{ヘイ}纏^{テン}各^{オノオノ}二^ニ百^{ヒャク}具^ク
云^フ海^{ウミ}中^{ナカ}亦^モ離^リき^ル事^ニ一^{イツ}島^{シマ}あり^ル事^ニ常^{トコ}あり^ル事^ニ故^ニあり^ル備^ヒも^モあり^ル
べ^レ事^ニ思^フふ事^ニ息^{イキ}の嶋^{シマ}あり^ル事^ニ和^ワ名^ナ抄^{セウ}亦^モ壹^{イツ}
岐^キ郡^{クニ}亦^モ鯨^{ケイ}伏^{フク}鄉^{サト}あり^ル此^{コト}國^{クニ}風^{フウ}土^ツ記^キ亦^モ鯨^{ケイ}伏^{フク}在^{アル}郡^{クニ}西^セ昔^{セキ}者^{シヤ}鯨^{ケイ}

弘仁四年九月廿九日大政官符應_下停對馬島史生一員置_中
新羅譯語一人事右得_テ太宰府解_テ備新羅之船來_テ著_レ件島言
語不通來由難_レ審彼此相疑濫加_テ殺害云々又云弘仁十三
年三月二日云々此島僻居_レ溟海之外遙_レ接隣國之界云々
續日本後紀仁明天皇兼和十年八月戊寅云々當_テ新羅國
遙有_レ鼓聲傾_テ耳聽_レ之_ヲ每日三響常_ニ俟_レ已時其聲發動加以_テ至_レ
于黄昏火更見_ニ矣云々文德實錄嘉祥二年二月庚戌云々
此島居海中地近_ニ新羅若有_レ機急者何以_テ備_レ不虞云々三代
實錄清和天皇貞觀十二年二月十二日甲午先是_ニ太宰府
言對馬島下縣郡人卜部乙屎麻呂為_テ捕_レ鷓鴣向_テ新羅境乙

屎麻呂為_ニ新羅國所執縛囚禁于獄乙屎麻呂見_レ彼國挽_レ運_レ
材木構_レ作大船擊鼓吹角簡_レ土習_レ兵乙屎麻呂竊_レ問防授人
答曰為_レ伐_レ取對馬島也乙屎麻呂脫_レ禁出_レ獄纒_レ得_レ逃歸云々
三月十六日戊辰從五位下行對馬島守小野朝臣春風云々
軍旅之儲蓄在_レ介胃今胃雖_ニ薄助以_ニ保侶云々云々ありと
も海中不_レ放_レ也云々一島ありを_レ知らずありを_レ以_レへるの
ゆゑ對馬乃_ニ二字ハ好字と撰_レきたるありありを外國人ハ
言語明_レらる_レありと_レ物ふれを都志麻_トい_レる事と_レか
乃_ニ國人乃_ニ口_ニありハ_ニ去難_クと_レ都_ニ以_レ婆_トとい_レて對馬_乃字
と魏志_トとい_レふ書_レふか_レと_レ云_レや_レて皇國_{あり}も其_レ字

用^{モキ}られし^{モキ}をハ小野朝臣妹子を外國へ遣^{ツク}されし
 糸かの國人乃^{モキ}口^{モキ}糸^{モキ}ハ伊毛古^{モキ}とハ以^{モキ}ひ^{モキ}て^{モキ}伊牟
 加^{カウ}宇^ウとい^{モキ}て因^{イン}高^{カウ}乃^{モキ}字^{モキ}を^{モキ}書^{モキ}て奉^{タマフ}り^{モキ}ハ糸^{モキ}や^{モキ}テ^{モキ}其^{モキ}字^{モキ}を
 用^{モキ}て御^{ミコ}答^タし給^{モキ}し事^{モキ}日本書紀糸^{モキ}あり^{モキ}と^{モキ}を^{モキ}神代卷
 糸^{モキ}對^ツ馬^マ乃^ノ字^ジと正^{モキ}字^{モキ}乃^{モキ}如^{モキ}く對^ツ馬^マ嶋^{シマ}と^{モキ}か^{モキ}り^{モキ}ハ誤^{アヤマリ}あり^{モキ}か
 く^{モキ}てハ津^ツ嶋^{シマ}の^ノ嶋^{シマ}と^{モキ}り^{モキ}嶋^{シマ}乃^ノ字^ジ以^{モキ}て^{モキ}く^{モキ}糸^{モキ}や^{モキ}テ^{モキ}其^{モキ}字^{モキ}を

諸國名義考終下卷

六、寫

